

## Ⅱ 自主的な安全衛生活動

安全な作業を定着させるためには、全員が災害防止の活動に取り組み、危険に対する認識、安全意識を高めることが重要です。

自主的な活動例を紹介します。

### 1 ヒヤリ・ハット活動

作業中にヒヤリとした、ハットしたが幸い災害にはならなかったという事例を報告・提案する制度を設け、災害が発生する前に対策を打とうというのがヒヤリ・ハット活動です。



(ヒヤリ・ハット事例)

#### ○ ヒヤリ・ハットの状況

商品の仕分け作業庫で商品を運搬中、床が散水により濡れていたため、転びそうになった。



#### ○ 対策

- ・ 床面に散水したときは、すぐに拭き取る。
- ・ 商品を運ぶときは台車を使用する。

### 2 危険予知活動(KY活動)

危険予知活動は、作業前に現場や作業に潜む危険要因とそれにより発生する災害について話し合い、作業者の危険に対する意識を高めて災害を防止しようというものです。作業の状況を描いたイラストシートなどを用いて行う方法などがあります。



#### ○ 作業の状況

脚立を使って窓ふきを行っています。



どのような危険が  
潜んでいるでしょうか？

- ・ 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出した際に脚立がぐらついてよろけて落ちる。
- ・ 脚立から下りる際に、地面に置いてあるバケツに足を引っかけて転ぶ。

### 3 安全当番制度

職場の安全パトロール員や安全ミーティングの進行役を、当番制で全従業員に担当させる制度です。従業員の安全意識を高めるのに有効な方法です。

以上のほか、安全提案制度、4S(整理、整頓、清潔、清掃)活動、職場安全ミーティングなどさまざま工夫がされています。事業場の実態に即して、ふさわしい活動に取り組みましょう。